

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

震災に消えぬ痛みを分かち合うダンスにこめて握る手と手が 惣領 島田 廣子

我儘な一人暮らしの自由さも被災して知る人は絆と 宮園 島 みつぎ

金星の冴ゆるあかつき草生ふる畑に來たりて 金永 守住 孝子

暑きなか上棟式はめずらしく古式でなされ笑みもこぼれる 宮園 金子フム子

祝餅背負い踏みする愛らしさ よちよち歩きうしろに返る 古閑 井上てつ子

益城中吹奏楽の部員達 日差しの中で笑顔は健気 馬水 上野 暎子

遠くから祭り囃子が聞こえて秋が来たよと伝えるような 寺迫 今村 文子

ゆうすげの残る一輪咲き終えて蜻蛉群れ飛び夏は終わった 安永 川野 光子

朝露に光る稲穂は頭垂れ季節招いて収穫を待つ 小谷 今吉マキ子

吾が視野に光溢れる高原は彩どり揺れるコスモスの花 安永 山下たか子

直向きに投打の球に喰らいつく球児の夏も今日が決勝 赤井 増岡 伸禧

【応募】 投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

秋夕焼薄着で急ぐ家路かな

赤井 鈴木 駒

台風一過虫の音競ふ音楽隊

寺迫 今村 文子

花殻を摘む指先に露ひかる

小谷 今吉マキ子

秋風に吹かれて騒ぐすすきかな

安永 桑崎むつ子

寂しさよ児等の声なき夏休み

馬水 西田 正己

二百十日一合升のお神酒かな

赤井 西山恵美子

七夕や妻棲む星は彼の星か

赤井 増岡 伸禧

猫じゃらし色なき風にじゃれてをり

木山 山口サツキ

この町の歴史語らひ虫を聴く

田原 辻ヶ峰子

一句鑑賞

飯田 蛇匂

をりとりてはらりとおもきすすきかな

田上 富岳 選

狂句

田上 富岳 選

たから箱 心の中にしまい込む

辻の城 岸良真由美

たから箱 小さな家で楽しかつ

江津 高田美佐子

たから箱 山で集めたかぶと虫

馬水 西田 正己

たから箱 聖徳太子の入つとらす

古閑 井上てつ子

たから箱 夢が欲しさの子の貯金

赤井 増岡 酔酔

行き渡らず 私の前で終わったつ

広崎 松原まゆみ

行き渡らず 土産も一つ足りなんだ

赤井 鈴木 駒

行き渡らず みんなで分ける気持ち良さ

木山 今吉美美江

行き渡らず 昼のオヤツじやばかいあい

小谷 まさのり

行き渡らず 幹事は何ばしとつとや 宮園 井藤 吉郎

狂句次号の課題「村まつり」「尻をたたかれ」

益城の文化財 町文化財保護委員会



内 寺

福田寺の証人 「虎が塔」

かつて内寺地区の福田寺跡には、熊本県下で最大級の五輪塔とされる通称「虎が塔」がありました。鎌倉時代の文永8(1271)年に造られたものです。全体の高さは2.46m、最大幅が1.11mあり、どっしりとした格調高い風格を感じさせます。

郷土史家であった永田日出男氏は、「古くは16番目、高さは全国一の五輪塔が、原初のまま悠然と威容を見せてくれた」、「これに遭遇した瞬間の私の驚愕と歓喜の鼓動の高鳴り」と報告されています。

福田寺の修験僧は、内寺地区の入り口にあった、この「虎が塔」にお参りして、「一の川」(現在の赤井川)で身を清め、川を渡り、「一の香」で香をたき、峰入り修行のため福田寺へ登っていったのでしょ。